

薬剤耐性ダイズ紫斑病に対する効果的な防除薬剤		
[要約] 薬剤耐性ダイズ紫斑病に対してアゾキシストロピン水和剤、イミベンコナゾール粉剤、シメコナゾール水和剤の防除効果が高い。		
農業総合センター農業研究所	成果区分	普及(普及)

## 1. 背景・ねらい

チオファネートメチル剤耐性紫斑病菌は県内に広く分布している。そこで、薬剤耐性ダイズ紫斑病に対し効果的な防除薬剤を選定する。

## 2. 成果の内容・特徴

1) 薬剤耐性ダイズ紫斑病に対して、アゾキシストロピン水和剤(アミスター20フロアブル)2000倍を開花約25日頃に1回散布すると高い防除効果が得られる(表1)。また、イミベンコナゾール粉剤(マネージ粉剤DL)4kg/10a散布処理、シメコナゾール水和剤(サンリット水和剤)1000倍散布処理の防除効果も高い(図1)。

2) 単剤処理では、イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤(ベルコート水和剤)1000倍散布処理の防除効果は低く、チオファネートメチル水和剤(トップジンM水和剤)1000倍散布処理の防除効果は認められない(図1)。

3) 耐性菌発生を抑制する薬剤防除体系として、開花20日後の第1回目の防除でアゾキシストロピン水和剤(アミスター20フロアブル)2000倍を散布し、開花30日後の第2回目の防除にイミベンコナゾール粉剤(マネージ粉剤DL)4kg/10aまたはイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤(ベルコート水和剤)1000倍を散布すると、安定した高い防除効果が得られる(図2)。

## 3. 成果の活用面・留意点

1) 県内全域にチオファネートメチル剤耐性紫斑病菌が分布していると考えられ、チオファネートメチル剤から他の剤への転換が必要である。

2) アゾキシストロピン水和剤の防除効果は高いが、本剤の耐性菌出現を抑制するため、連続散布は行わない。

3) イミベンコナゾール粉剤またはイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤の単剤の防除効果は、アゾキシストロピン水和剤に比べると低い。アゾキシストロピン水和剤散布後の第2回目の防除剤として体系防除に用いることで安定した高い防除効果が得られる。

4) 防除にかかる資材費の目安は、10aあたりアゾキシストロピン水和剤が1600円、イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤が1600円、イミベンコナゾール粉剤が1200円である。

#### 4. 具体的データ

表1 薬剤耐性ダイズ紫斑病防除に対するアゾキシストロピン水和剤1回散布の効果

試験区	被害粒率 (%)	防除価
アゾキシストロピン水和剤散布区	0.6	95.5
無散布区	13.4	-

注) 品種「エンレイ」2003年試験。播種：6月20日。薬剤散布日：8月29日。

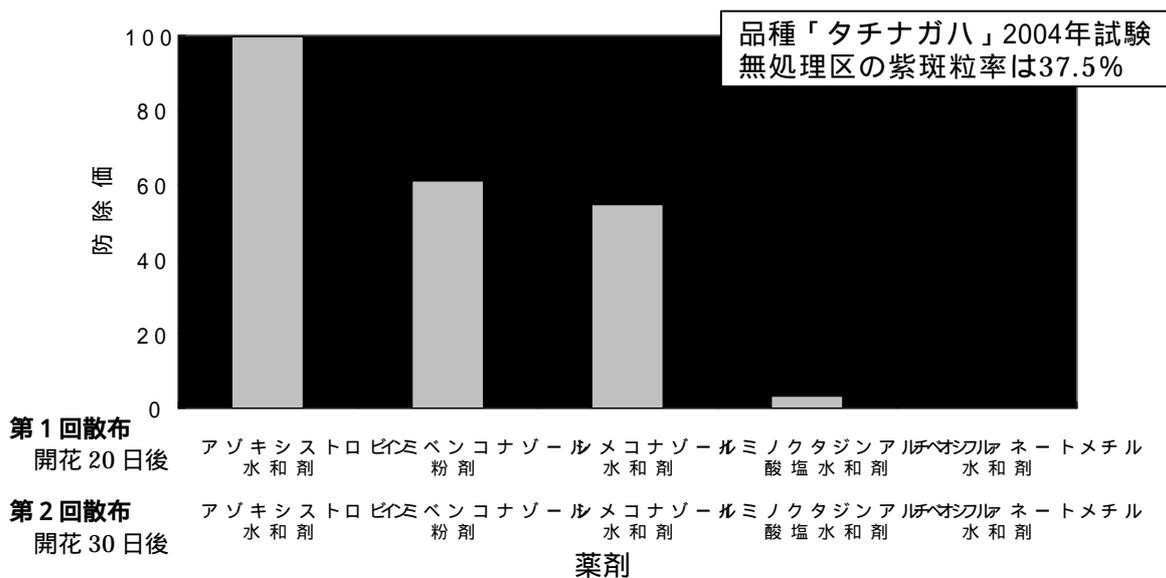


図1 薬剤耐性ダイズ紫斑病防除に効果的な薬剤 (単剤)

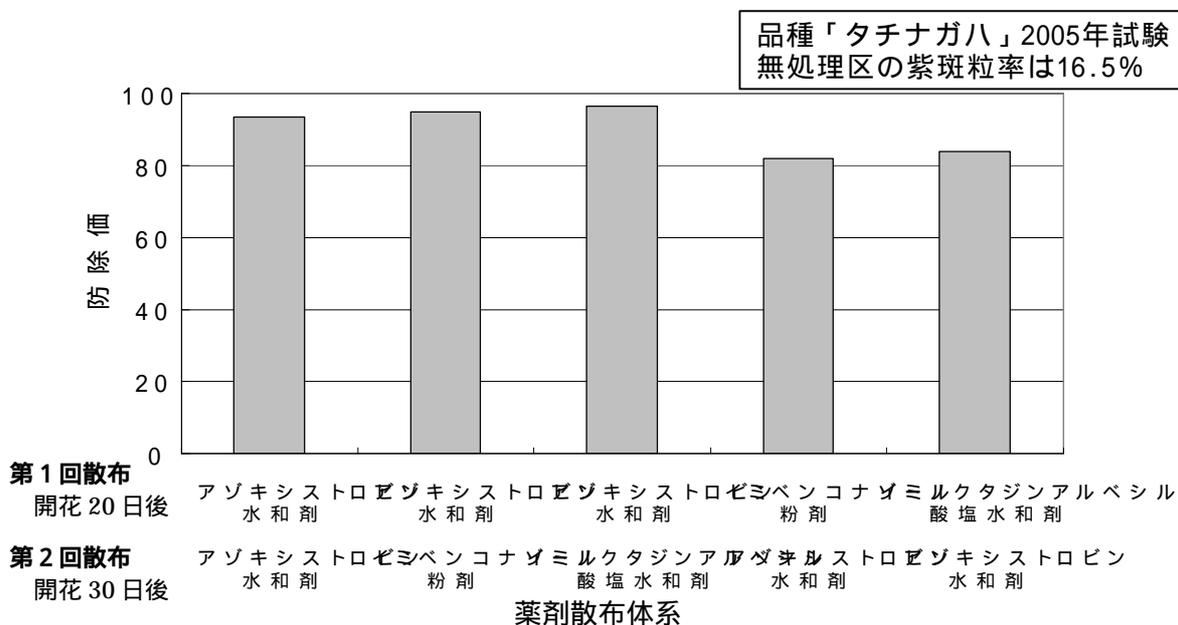


図2 薬剤耐性ダイズ紫斑病防除に効果的な薬剤散布体系

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

薬剤抵抗性ダイズ病害虫の防除技術の開発と実証・平成16～18年・病虫研究室